

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、テレワークやオンライン会議といったICT活用が急速に進展しています。学校教育の現場でも、情報社会に対応する力を育成するとともに、多様な子どもたちを一人も取り残すことなく、個性に合わせた学びを実現させるためのICT教育が求められています。

町では、県内他市町村に先駆け、平成22年度に町内小・中学校の各教室へ電子黒板を設置。令和2年度には、校内高速大容量通信ネットワークを整備し、児童生徒へ一人一台タブレットを配布しました。こうして、現在電子黒板とタブレットを活用した新たな学びが展開されています。

今、子どもたちの「生きる力」を育むという目標のもと、「何を学ぶか」だけでなく、「何ができるようになるか」や「どのように学ぶか」という視点に立った教育が必要とされています。「どのように学ぶか」の一つがICT教育で、児童・生徒の「情報活用能力」の向上が期待されます。

# ICTで変わる 学びの未来



## どんな風に授業が変わったの？

子どもたちに3つのポイントを聞きました。

### 01 写真やペイント機能で、学習の成果を楽しく記録しています

タブレットのカメラ機能を使って、植物の生育の様子を写真に撮って記録したり、ペイント機能で絵や文字を描いて自分の意見を発表したりしています。さまざまな機能があって、授業がさらに楽しくなりました。



写真を撮って記録するのが楽しい

伊達崎小2年  
まおみ  
蓬田 真央帆さん

### 02 授業の様子を動画で撮影して、復習に役立っています

体育のマット運動の授業で、自分の動きを動画で撮影し、フォームやくせを確認しています。客観的に自分の動きを把握できるので、正しい例と比較しながら、動きを改善できるようになりました。



動画で、自分の動きをチェック

睦合小4年  
れん  
佐藤 蓮さん

### 03 インターネットにつないで、さらに多くの知識を得ています

インターネットで専用ウェブサイトを開き、関連映像を見たり、計算問題をダウンロードしたりなど、教科書を超えた学習を展開しています。より多く知識を得ることができ、授業への理解も深まります。



インターネットでさらに深い学びを

半田醸芳小6年  
しょう  
宮崎 翔さん

タブレットを使って、ひらがなの書き方を練習する醸芳小学校1年生。正しい書き順の映像やひらがなの音声の流れ、何度も指で繰り返して覚える反復練習もできます。